

【事例紹介】

「KOSHUKAI」

–ブラジルにおける帰国留学生による 渡日前オリエンテーションの取組–

“KOSHUKAI”: Pre-Arriving Orientation in Brazil by Alumni of Study in Japan

筑波大学国際室教授 森尾 貴広

MORIO Takahiro

(Office of Global Initiatives, University of Tsukuba)

キーワード：渡日前オリエンテーション、ブラジル、帰国留学生同窓会、留学生支援

1. はじめに

日本に留学する外国人学生にとって、彼らが渡日直後から経験する日本語、日本での生活様式、日本の社会は、母国とは違った環境での新たなスタートを意識させると同時に、「自分はやっていけるのだろうか」と戸惑いと不安をかき立てるものである。こうした不安を少なくするには事前の情報収集が効果的であり、昨今ではインターネットの普及により、従前のテキストや写真による情報のみならず、動画やSNSによるリアルタイムかつインタラクティブな情報収集手段が活用されている。しかしながら、インターネット上の情報は自分にとって必要なものがどこにあるのかを見つける段階で苦労することも少なからずあり、本稿で取り上げるブラジル人留学予定者も、限られた情報源の中「日本留学中にどのようなサポートを受けられるのか」「日本で仕事ができるのか」「自分の日本語が通用するのか」「文化の違いで困るのではないだろうか」等の不安を抱えている。

こうした中、ブラジルでは帰国留学生が中心となって、日本での留學生活のノウハウをこれから留學する後輩達に伝授する活動を展開している。本稿はブラジルにおける留學予定者を対象とした草の根レベルの渡日前教育のユニークな活動である「KOSHUKAI（講習会）」を紹介する。

2. ブラジルからの日本留學の概要

別稿で述べたように、ブラジルは距離こそ離れているものの日本に対する好感度や関心が高く、今

後期待される留学生リクルーティング対象国のひとつである（森尾ほか、2017）。また、190万人規模の世界最大の日系社会を擁し、当地における日本文化の受容・継承・発信の大きな母体を形成している。日系社会の存在は留学生リクルーティング市場としてのブラジルを特徴づけているもののひとつであり、日系、非日系を問わず優秀な留学生確保、渡日前、帰国後の留学生のケアに大きな役割を果たしている。

近年、ブラジル政府は大学の国際化を積極的に推進しており、国際共同研究、学生・研究者の双方の国際交流を支援している。2013年には「国境なき科学」計画(Ciencia sem Fronteiras)が開始され、2015年に当初予定より早く学生募集が打ち切られたものの、全世界に約10万人の学部学生、大学院生、若手研究者を派遣した。日本にも440名が来日し、一部は帰国後正規生として再び日本の大学に入学するなど、日本留学への関心を惹起する効果が得られた。「国境なき科学」計画は大学の国際化を推進するというブラジル政府の意図に反し、結果的に学生個人、特に学部レベルの学生の留学を後押しするものであったが、2018年より本来の目的である大学の組織的な国際化・研究力強化を目指す事業 ([Programa Institucional de Internacionalização : PrInt](#)) が実施される予定である。PrIntは大学を実施主体とし、大学の国際化、研究力強化の計画を助成するもので、我が国におけるスーパーグローバル大学創成支援事業と似た方向性を有している。PrIntにおいても学生の交流の支援が行われるが、特定のパートナー大学に対する大学院博士後期課程学生の交流がもっぱらの対象となるため、「国境なき科学」計画とは大きく性格が異なる。

ブラジル人が日本に留学するための奨学金は日本政府（文部科学省）奨学金に加え、ブラジル高等教育支援・評価機構（CAPES）による奨学金、JASSOによる奨学金・学習奨励費、日本の大学が独自に支給する奨学金がある。特に日系人に対しては、JICA日系社会リーダー育成事業、いわゆる「県費」と称される都道府県・市町村が支給する奨学金、日本財団日系スカラーシップ等の民間奨学金の多彩な枠組みがある。

このようにブラジルは日本への留学生リクルーティング市場として今後の留学生増加が見込まれており、2017年度は「国境なき科学」計画の奨学金を受けて学生が多数来日した2014年～2016年度に比べ留学生数が減少したものの、同計画実施以前と比較すると、私費留学生数が堅調な伸びを見せている（図1）。

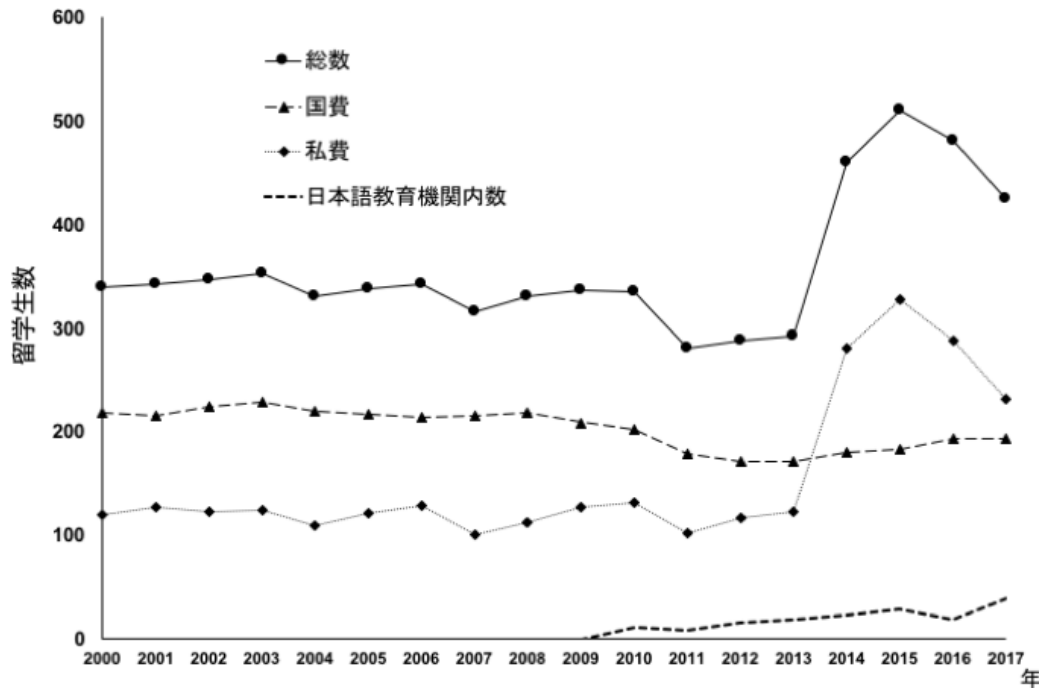


図1 ブラジルからの留学生の推移。各年5月1日現在の留學生数を表す。2010年度より日本語教育機関の留學生も「留学」の在留資格に一本化されたため、同年度以降の日本語教育機関の在籍者も示している。データは日本学生支援機構「留學生調査」に基づく。

3. 帰国留學生同窓会による渡日前オリエンテーション「KOSHUKAI」

ブラジルでは帰国留學生同窓会が地域あるいは留学・研修の枠組み単位で組織され、活動を展開している。この中で [ASEBEX \(Associação Brasileira de Ex-Bolsistas no Japão\)](#) は、ブラジルにおける日系人団体である [ブラジル日本文化福祉協会 \(BUNKYO\)](#)、[ブラジル日本都道府県人会連合会 \(KENRE N\)](#) それぞれの傘下にあったふたつの日本帰国留學生同窓会が 1991 年に合併して設立された同窓会であり、サンパウロ州を中心に活動している。帰国留學生間の親睦以外に、日本留学説明会や渡日前オリエンテーションを開催し、後輩たちへの日本留学支援活動を積極的に展開している。

KOSHUKAI は渡日前の留學生および日本留学に興味を持つ学生を対象にした渡日前オリエンテーションであり、その歴史は 1958 年まで遡る。現在は ASEBEX が主催し、在サンパウロ総領事館、JICA、BUNKYO 等の日系組織・団体の他、国際青年会議所、地元財団・企業の協力のもと、サンパウロ市内の日系施設を会場に実施している。KOSHUKAI 実施の趣旨は日本に留学する学生と一緒に日本について学ぶことで、日本留学のモチベーションを高め不安等を解消するものである。

対象者は当該年度に日本に留学する学生に加え、JICA 研修生、JET プログラム（語学指導等を行なう外国青年招致事業）生、県費研修生等の研修生や日本留学に興味を持つ学生にも門戸が開かれており、毎年 100 名前後が受講する。受講料は 170 ブラジルリアル（約 5,600 円）であるが、11 月頃の参

加受付開始時には早期申し込み割引が利用出来る。毎年1月初頭から2月初頭までの月曜から金曜の夜に2時間半程度のセミナー・実習を行う。加えて週末にはブラジル日本移民史料館、日本文化の発信拠点として2017年5月に開館した[ジャパン・ハウス](#)、サンパウロにあるイビラプエラ公園の日本庭園へのエクスカージョン、運動会などのレクリエーション活動を行う。

講習の内容は日本の歴史、地理、文化、政治、社会といった基本情報から、礼儀作法、買い物の仕方、家電製品の使い方、電車の乗り方など日常生活のシミュレーション、携帯電話やアプリの使い方、日本での留学生活でかかる費目、留学に向けて必要な準備事項、リーダーシップやモチベーションの保ち方に関するグループディスカッションと、日本での留学生活に適応するための幅広い実践的なスキルを身につけられるようになっている。

例えば日本の礼儀作法では、礼儀作法とは何かから始まり、日本の社会とブラジルの社会の相違、正座、お辞儀、名刺交換、席順の決め方、お茶、お菓子、食事の作法、忘れてはいけない持ち物等、日本での生活で遭遇するシチュエーションを受講生が何度も繰り返し練習する。この中では「ほうれんそう」（報告、連絡、相談）のような日本特有のビジネスマナーの講習もある。

2018年は表1に示したスケジュール、内容で開催された。各回は冒頭の15分に一般連絡あるいは日本の四季や日本食、日本のマンガ等のショートレクチャーが行われ、続いてメインのレクチャー、ワークショップが途中休憩を挟んで2時間実施される。週末にはレクチャー終了後にカラオケ大会が開催される。最終日の修了式には受講者に修了証が手渡される。

表1 2018年1月～2月に開催されたKOSHUKAIの内容

日程	内容
1月8日（月）	開講式
1月9日（火）	留学体験談
1月10日（水）	留学体験談、日本食
1月11日（木）	ブラジルの代表としての振る舞い、日本の春
1月12日（金）	室内レクリエーション、カラオケ大会
1月13日（土）	ブラジル日本移民史料館、ジャパン・ハウス訪問
1月15日（月）	文化と社会マナー、相撲
1月16日（火）	食事とテーブルマナー、留学経験者による相談
1月17日（水）	スピーチの方法、日本のサッカー事情
1月18日（木）	渡航計画、異文化適応、携帯電話とアプリ、日本の夏
1月19日（金）	日本の地理、事故に遭わないために、服装について

1月20日（土）	屋外レクリエーション
1月21日（日）	屋外レクリエーション
1月22日（月）	留学を成功させるために
1月23日（火）	日本の歴史、留学経験者を囲んでのラウンドテーブルディスカッション、 よさこい
1月24日（水）	日本の行事、留學生活の予算計画、留學準備、日本の秋
1月25日（木）	レクリエーション
1月26日（金）	イビラプエラ公園の日本庭園訪問
1月27日（土）	レクリエーション
1月29日（月）	日系社会、より良い学修にむけて、日本のマンガ
1月30日（火）	リーダーシップ、日本の冬
1月31日（水）	ASEBEX夏祭り、太鼓、感謝と伝統
2月1日（木）	受講生によるプレゼンテーション
2月2日（金）	修了式

内容は日本での留學生活に役立つトピックが多岐にわたっているが、中には日本の芸能として現地の若者の間で人気の高いよさこいや太鼓のショートレクチャーもあり興味深い。実際、日本の大学においてよさこいや太鼓のサークルにブラジル人のみならず留學生が参加し、日本人学生との交流のきっかけとなっている。また、日系社会に関するレクチャーやブラジル日本移民史料館見学によって、日本とブラジルとの交流の歴史や今日の日系社会の成り立ちを学び、留學生に日本とブラジルの架け橋となる自覚を促す良い機会となっている。

2ヶ月間に及ぶオリエンテーションのあと、3月には同窓生と受講生が中心となって「夏祭り」が開催され、お好み焼き、焼きそば、餃子、おにぎり、アイスクリームの天ぷらの日本食の模擬店や日本の民謡や舞踏、コンサートで盛り上がる。この夏祭りもまた渡日前教育の一環となっており、これから日本へ旅立つ学生が日本でのイベントの様子や運営法、先輩と後輩とのつながり等、日本での留學生活を豊かなものにするためのノウハウを学び、日本留學のモチベーションを高める機会でもある。

KOSHUKAI は毎年 60 名以上の講師・スタッフが運営しているが、かつて受講生だった帰国留學生も積極的に参加し、教える側と教わる側の距離が近い先輩と後輩が一緒になって盛り上げるイベントとなっている（図 2）。



図2 KOSHUKAI参加者。

KOSHUKAI の受講者もまた留学・研修を終えて帰国すると今度は講師として後輩を教え、あるいはスタッフとして世話をする。こうして育まれる先輩と後輩の「縦のつながり」によって KOSHUKAI が持続的なものとなっている。

受講生の感想も概ね肯定的なものが多く、「講習会に感謝している」「日本に行くための準備をたくさんしてくれる」「たくさんの友達ができ」「不安が解消された」「日本へ行きたいという意識が高まった」「とにかく楽しかった」との感想が寄せられている。特に留学予定者同士の親睦が深まることはオフラインならではの効果である。実際に渡日後も留学生・研修生が集まってクリスマスパーティーや富士登山を行うなど、KOSHUKAI で得られた人的ネットワークが続いている。留学・研修先によっては、同じ国の出身者が他にいないことも少なからずあり、留学・研修先を超えたネットワークがセーフティネットとして機能している。

こうした帰国留学生同窓会による留学予定者の渡日前オリエンテーションはサンパウロ市の他にリオデジャネイロ州等、地方の同窓会組織でも行われており、KOSHUKAI が伝統として根付いている。

4. 留学コーディネーターとの連携

筑波大学は2015年度よりブラジルにおける留学コーディネーター事業を受託し、現地コーディネーターによる留学相談や情報発信、[Facebook](#)、留学フェアの開催による日本留学への関心の惹起等の活動を展開している。同時に、主に日本語に関する渡日前の予備教育のツールとして、筑波大学が開発した日本語eラーニング教材（[スマートフォン／タブレットアプリ連動版](#)、[Web版](#)）の紹介、提供を行っている。本事業は2018年度より「日本留学海外拠点連携推進事業」として、対象地域をブラジルから南米全域に拡大すると共に、渡日前から帰国後までの一貫した日本留学サポートが活動の目標となる。KOSHUKAI を始めとする帰国留学生同窓会の活動は本事業の補完的役割を果たすものであり、密接な連携が望まれる。2016年開催のKOSHUKAI においては、筑波大学の現地コーディネーターがKOSHUKAI に講師として登壇し、日本の大学や奨学金制度についての紹介を行った。

今後日本の各大学からの学修・研究内容やキャンパスライフなどの「生の情報」の提供や各種情報のアップデート、現地に進出している日本企業との連携によるKOSHUKAI でのキャリア教育、渡日前オ

リエンテーションが行われていない地域や国への KOSHUKAI モデルの普及など、本事業と KOSHUKAI の更なる連携が期待される。

5. おわりに

2018 年は KOSHUKAI を始めて 50 周年であり、日本からブラジルへの移民 110 周年にあたる。ASEBEX ではこれを記念したイベントの開催を企画すると共に、日系社会との連携をさらに深めることを計画している。

また、2018 年 7 月 1 日より、日系 4 世に対し日本語・日本文化・日本の生活様式の理解のための活動および当該活動に必要な資金を得るための就労を「特定活動」の在留資格とする出入国管理及び難民認定法上の規定の改正が施行された。日系 4 世の在留資格については留学に直接結びつかないまでも、日本そして日本留学への新たな関心を惹起し、留学に向けた具体的アクションのきっかけとなることが期待される。この様な流れの中で KOSHUKAI のような草の根レベルの渡日前オリエンテーションが留學生活のノウハウの伝授の機会のみならず、人的ネットワークの形成の場として今後ますます意義が高まるであろう。

謝辞

本稿を執筆するにあたり、データの提供等の協力をいただいた ASEBEX (Associação Brasileira de Ex-Bolsistas no Japão) 会長 Felipe Takashi Rios Hokama 氏、副会長 Robert Yoshikae 氏、筑波大学サンパウロオフィス・コーディネーター八幡暁彦氏に感謝の意を表す。

参考文献

森尾貴広、五十嵐千恵子、木野内聡、八幡暁彦 (2017) ブラジルと共にグローバル人材を育てる - 留学コーディネーターの視点から -。ウェブマガジン『留学交流』2017年1月号 Vol. 70, 35-43.